

平成27年度函館市事業評価調査書

平成27年6月作成

整理番号	51	事業名	観光客受入環境整備経費		事業の性質別	裁量的経費	区分			
予算事項名	大事項	観光基本計画推進費		中事項	観光客受入環境整備経費		部課名	観光部観光企画課 観光部国際観光課		
事業開始年度	平成 27 年度	根拠法令等	なし	<input type="checkbox"/> 法律・政令・省令名() <input type="checkbox"/> 道条例, 規則, 要綱等() <input type="checkbox"/> 市条例, 規則, 要綱等()					電話番号	0138-21-3323 0138-21-3454

1. 事業の目的・必要性と内容 (PLAN) ※この事業を行う目的・必要性は何か。どのような取組を行っているのか。

目的・必要性	【目的】	観光客に対する受入環境の整備を進めることにより、旅行中の満足度・利便性の向上に努め、函館観光に好印象を持ってもらうことで、リピーターの増加などさらなる観光客の増加につなげ、本市の基幹産業である観光産業の活性化を図るため。
	【必要性】	来函観光客の増加を達成するためには、対外的なPRだけではなく、実際に函館市を訪れた観光客に、満足度の高い快適な観光を実感してもらい、函館観光に対して好印象を持ってもらうことが必要不可欠なため。
内容	函館を訪れた観光客の満足度や不満点などの現状を把握し、受入体制などの改善を図るための観光客満足度調査を実施する。 外国人観光客の受入環境整備のための施策として、平成27年度には、市内の観光関連事業者を対象に外国人観光客受入のための知識を深めてもらうためインバウンドセミナーの開催や外国人観光客が旅行中に快適に情報通信端末(スマートフォンやタブレットなど)を使用できるようWi-Fi環境の整備について普及啓発を実施する。 ※平成27年度6月補正予算において、市内のWi-Fi環境拡充させるためWi-Fi環境拡大促進事業も実施予定。	

2. 概算総事業費 (DO:コスト) ※事業を行うための費用の状況はどうか。コストがどれくらいかかっているのか。

(単位:人, 千円)

		平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算	平成26年度決算見込	平成27年度予算	平成28年度予算要求
事業費 (A)		0	0	0	0	838	0
特定財源	国・道						
	市債					800	
	その他						
一般財源						38	
事業を実施するために必要な人件費 <small>※人工は小数点第3位を四捨五入しているため、実際に人工がかかっている場合も0で表示されている場合がある。</small>	職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.92 6,911	人工 0.00 0
	嘱託職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0
	臨時職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0
	人件費 (B)	0	0	0	0	6,911	0
総事業費計 (A+B)		0	0	0	0	7,749	0

3. 活動実績 (DO:アウトプット) ※目的を達成するためにどのように取り組み、その実績はどうか。

活動指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
観光客満足度調査回答件数	件		620	531	
セミナーの参加者数	人		61	100	

4-1. 成果等 (DO:アウトカム)

※事業の成果指標は何か。

成果指標	観光客満足度調査回答件数 函館市における訪日外国人宿泊客数
------	----------------------------------

4-2. 成果等 (DO:アウトカム) ※事業を実施し、どのような成果が得られたのか。

事業の成果等	観光客満足度調査においては、500件以上の調査件数を収集し、分析を行うことで函館観光の具体的な不満点や満足度などの現状を把握した。
--------	---

5. 事務事業の点検 (CHECK)

評価項目		評価内容	評価内容の説明	評価項目		評価内容	評価内容の説明
必要性	事業の市民ニーズ	高まっている	観光客満足度調査においては、観光施策の戦略的な実施のための現状把握は必要である。また、近年、外国人観光客が増加しており、外国人観光客の受入環境整備は観光関連事業者からも求められているところである。	コスト・負担	コストの節減度	節減できている	観光客満足度調査においては、マークシートによる調査方法を採用し、集計に係るコストを節減しているほか、インバウンドセミナーについては、他の観光関係団体と共催し経費を分担することでコスト低減を図った。なお、業務の外部委託や国・道の補助事業等の活用によりさらなるコスト低減の可能性も考えられる。
	市の関与の妥当性	社会情勢等から関与が妥当			将来コスト増減見込み	現在より低減する可能性	
			受益者負担の適正度		適正		
成果・有効性	成果の達成状況	達成している	訪日外国人宿泊者数という定量的な指標で増加が確認されており、事業の成果は達成されている。また、市内の観光関連事業者に対して、広く受入環境整備を進めるためには、セミナー形式等の現在の手段が最適。	執行方法	外部委託の可能性	実施していないが、可能	インバウンドセミナーの開催については、専門とする事業者に外部委託する可能性がある。
	事業目的実現のための手段	現手段が最適			実施方法の効率性	図られていない(今後改善の余地あり)	
評価結果から明らかになった課題事項など							

6. 今後の改善策 (ACTION) ※今後改善する点は何か。どのように進めていくか。

今後の方針 (改善・見直し内容)	基本方針	(事業について) インバウンドセミナーについては現行どおり継続するとともに、観光客満足度調査についてはこれまでの調査で得られた結果についてさらに深い内容の調査をするために対面方式などの調査方法を検討する。
	当面現状維持	(経費について) より効率的な事業の実施方法を検討し、コストの低減に努める。

参考: 他の自治体の状況

比較参考値 (他の自治体の類似事業の状況など)	
----------------------------	--